

ヒアリングの主な結果

ヒアリング実施日：2018年6月6日～6月12日

ヒアリング調査先：市内10施設、生涯学習サポーター3名、ファシリテーター養成講座受講者3名

市内10施設 生涯学習センター、中央図書館、中央文化センター、
四谷文化センター、ルミエール府中（市民会館）、
市民活動センター「ブラッツ」、府中の森芸術劇場、
郷土の森博物館、府中市美術館、
郷土の森総合体育館（市立総合体育館）、

ヒアリング方法：施設には直接調査員が出向いて事業担当者にインタビュー形式で聞き取りを実施。
生涯学習サポーターとファシリテーター養成講座受講者は、各3人に集まってもらい、
それぞれグループインタビュー形式で聞き取りを実施。

市内10施設ヒアリング結果

どの施設の講座も定員割れはあまりなく、市民の生涯学習活動は非常に活発

- ・どの施設でも生涯学習の入り口となるような講座が数多く開催されており、定員割れする講座は少ない（人気で抽選になっている講座も多い）。

参加者の中心は高齢者と親子（子育て世代の女性と子ども）

- ・子ども（親子）に向けた事業を中心に企画している施設が多い。
- ・講座受講者は高齢者と親子（子育て世代の女性と子ども）が中心。働き盛り世代や若い独身者の参加は少ない。
- ・登録団体やボランティアはリタイア層が中心。若い層はあまり参加していない。

「学び返し」の理解が進んでいない

- ・「学び返し」の理解が進んでおらず、「学び返し」を意識した事業とはなっていない。
- ・市民活動やNPO活動、コミュニティビジネスなどの「返す」事業は、近隣市と比較して、盛んな方ではない（平成29年の府中市の人口当たりのNPO法人数は、多摩の30市町村のうち、19位）。
- ・ブラッツ開設により、市民活動の今後の拡大が期待される。

市内全体の連携となっていない

- ・各施設とも、他施設、団体、企業、学校等との連携を行っているが、個別施設ごとの連携に止まっており、市内の生涯学習系施設同士の組織的な連携にはなっていない。

広報手段は「広報ふちゅう」、施設ホームページとチラシが中心

- ・広報の手段は「広報ふちゅう」、自施設のホームページとチラシという施設が多い。

市民ニーズの把握と事業への反映が課題

- ・市民のニーズを把握しきれていないと感じている施設が多く、把握できても予算や人員等の問題で事業に反映することが難しいと感じている施設もある。

生涯学習サポーター、ファシリテーター養成講座受講者ヒアリング結果

活動できる場が少ない

- ・府中の役に立ちたいという思いから登録・受講しているが、登録後・受講後に活躍できる場が少ない。
- ・もっと市民に生涯学習サポーターやファシリテーターの存在を周知し、活用してほしいと感じている。

ファシリテーター養成講座の内容に課題

- ・ファシリテーター養成講座の内容が実際の活動に役立つところまでいっていない。また、コミュニティに関わるモチベーションを与えるような内容になっていない。

横のつながりが希薄

- ・生涯学習サポーター同士の横のつながりがない。他のサポーターと交流し、活動状況を知りたい。
- ・ファシリテーターを組織化し、活動を推進してはどうかという提案があった。
- ・ファシリテーターの教育内容をみると、プラッツの講座と内容的に被るところが多い。